

# ダニと疾患のインターフェースに関するセミナー (SADI) の記録

## 第19回 SADI ツツガムシの里大会

(19<sup>th</sup> Seminar on Acari-Diseases Interface 2011 in Tsutsuga)

### 1. 開催要領

ホスト：岸本 嘉男（岡山県環境保健センター）

期 日：2011年11月3日（木）～11月5日（土）の3日間、任意の時間帯の参加可

会 場：第1日目 グリーンスパツツが（広島県安芸太田町中筒賀）

第2、3日目 川・森・文化・交流センター（同町加計）

費 用：参加費1,000円、疫学ツアー1,000円、懇親会4,000円

### 2. プログラム

#### 1日目 11月3日（木）

12:30 参加受付 森林館ロビーにて

13:00 平成23年度厚労科研第一回岸本班会議（森林館）

平成23年度学振科研第一回増澤班会議（森林館）

16:00～ 休 憩

[ SADI開会 ]

16:15 ホスト挨拶および大会オリエンテーション

16:15 教育講演

「医師国家試験とダニ；兵庫医科大学で経験したダニ関連疾患の重要性」

夏秋 優（兵庫医科大学皮膚科）

17:30 一日目終了

#### 2日目 11月4日（金）

8:00 疫学調査

貸切バスにて筒賀集落周辺の河川敷でツツガムシやマダニ採集、および三段峡の自然観察、また会場の川・森・文化・交流センターの展示を自由見学

13:00 歓迎講演「まめまめランド安芸太田」 岡 尚三（安芸太田町商工観光課）

13:30 ネイチャートーク「ヨーロッパ鉄道ダニ紀行」 高田伸弘 (福井大学)

13:50 休 憩

14:00 WS「疫学の課題」 (進行役 岸本寿男, 島津幸枝)

佐藤寛子: 秋田県におけるアカツツガムシ生息域 (2011 年)

門馬直太: 福島県におけるつつが虫病の発生状況

松本道明ほか: 四国地域のリケッチア症の動向

島津幸枝ほか: 広島県のリケッチア症の発生状況

木田浩司ほか: 岡山県のリケッチア症の動向

御供田睦代ほか: 九州地域のリケッチア症の動向

15:20 WS「臨床の課題」 (進行役 馬原文彦, 川上万里)

馬原文彦ほか: 発熱のみで患者さんが診断した日本紅斑熱の 1 例

坂部茂俊: 日本紅斑熱により末梢神経障害を生じた 1 例

和田正文: 経過観察で治癒した日本紅斑熱の 1 例

横田和久: 重症化したツツガムシ病～栃木県における 2 例からの教訓～

栢谷健太郎: 痂皮 PCR にて診断した日本紅斑熱 3 例の検討

川上万里: 中国地方におけるリケッチア症診療調査

川上万里ほか: 啓発活動により診断に至ったリケッチア症の三例

16:30 休 憩

16:40 WS「ダニ鑑別法研修 ダニ鑑別のコツ」 高田伸弘, 藤田博己, 角坂照貴

17:30 二日目終了

19:00 意見交換会 (グリーンスパつつがレストラン)

### 3 日目 11 月 5 日 (土)

9:00 WS「ダニ・病原体・動物 (I)」 (進行役 藤田博己, 山内健生)

藤田博己: 北日本のマダニ類からのリケッチア検出状況

高田伸弘: 乗鞍のコウモリとマルヒメダニ

高橋 守: 鹿児島県、埼玉県、山形県で採集されたタテツツガムシの休眠深度  
の比較

中本 敦: 小型哺乳類の生態学的研究からの日本紅斑熱のリスク評価へのアプ  
ローチ

山内健生: 愛媛県の哺乳類寄生マダニ類

小河正雄：大分県のマダニ調査

北野智一：宮古島の恙虫病に関する調査-池間島のネズミとツツガムシから検出された病原体

10:10 休憩

10:20 WS「ダニ・病原体・動物(II)」(進行役 矢野泰弘, 角坂照貴)

角坂照貴：ツツガムシ幼虫に対する殺ダニ試験に関する効力試験

福井貴史：Khabarovsk 近郊地域に生息するマダニからのアナプラズマ属細菌 D NA の検出

呉東興(ウヅシ)：静岡県野生シカが保有するリケッチア関連細菌群の解析

高田 歩：中国地方2例のツキノワグマに見られたマダニ類

赤松達矢：日本紅斑熱感染推定地におけるマダニ調査事例

藤田博己：福島市で発生したライム病の感染推定地における媒介マダニ調査

矢野泰弘：新型走査電顕鏡によるチマダニ属幼虫の有用分類の試行

11:20 WS「診断法の課題ほか」(進行役 及川陽三郎, 森田裕司)

和田康夫：潜伏期間中に疥癬を診断方法

森田裕司：リケッチア症と思われた症例の皮膚組織の免疫染色と血清抗体の検討

川森文彦：リケッチア分離法の検討

及川陽三郎：紅斑熱における尿中抗原検出の試み

11:50 全日程終了/事務連絡

12:00 解散

## 2. 登録参加者名簿 (2011年11月上旬現在の登録簿による;以下62名に検討中の方が数名加わり, また県内関係機関からも随時の日程で参加があった)

赤松達矢	馬原アカリ医学研究所	林 哲也	宮崎大学
安藤秀二	国立感染症研究所	本田俊郎	鹿児島県立大島病院
阿戸 学	国立感染症研究所	法月正太郎	自治医科大学附属病院
藤田博己	大原総合病院大原研究所	花岡 希	国立感染症研究所
藤井理津志	岡山県環境保健センター	岩崎博道	福井大学
福井貴史	千葉科学大学	稲田健一	藤田保健衛生大学
御供田睦代	鹿児島県環境保健センター	川端寛樹	国立感染症研究所

角坂照貴	愛知医科大学	及川陽三郎	金沢医科大学
岸本壽男	岡山県環境保健センター	清水慶子	岡山理科大学
木田浩司	岡山県環境保健センター	島津幸枝	広島県立総合技術研究所保 健環境センター
川上万里	まび記念病院		
小林秀司	岡山理科大学	坂部茂俊	山田赤十字病院
北野智一	宮崎県衛生環境研究所	坂井明澄	奈良教育大学
朽谷健太郎	亀田総合病院	齋藤光正	九州大学
川森文彦	静岡県環境衛生科学研究所	佐藤寛子	秋田県健康環境センター
松本道明	高知県衛生研究所	高田伸弘	福井大学
森光亮太	岡山理科大学	高田由美子	福井大学
宮本和明	和歌山県立医科大学	高橋 守	埼玉県立松山女子高等学校
森尾倫子	鳥取大学	多村 憲	新潟市（元新潟薬科大学）
門馬直太	福島県衛生研究所	高田 歩	岡山理科大学
馬原文彦	馬原医院	高瀬欽庸	馬原アカリ医学研究所
馬原けい子	馬原医院	富澤一郎	国立感染症研究所
宮原 敏	九州大学	内山恒夫	徳島大学
本井祐太	岐阜大学	呉東興	静岡県立大学
森田喜久子	国保明神診療所	和田康夫	赤穂市民病院
森田裕司	国保明神診療所	和田正文	上天草市立上天草総合病院
中本 敦	岡山県環境保健センター	山内健生	富山県衛生研究所
夏秋 優	兵庫医科大学	山本正悟	宮崎大学
大橋典男	静岡県立大学	横田和久	隠岐島前病院
大迫英夫	熊本県保健環境科学研究所	矢野泰弘	福井大学
小河正雄	大分県衛生環境研究センター	吉田眞一	九州大学
小河明美	大分県立病院		

## SADI 組織委員会

### 医ダニ学担当

- ・高田伸弘, 矢野泰弘（福井大学医学部）
- ・藤田博己（大原研究所）

編集や事務連絡などは下記まで

〒910 - 1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23-3

Tel/Fax 0776-61-8330 (直) e-mail : acari アットマーク u-fukui.ac.jp

SADI ホームページ [<http://sadi.workarea.jp/>]

#### 臨床医学担当

- ・馬原文彦 (馬原医院)

〒779-1510 徳島県阿南市新野町信里町 6-1

Tel. 0884-36-3339 Fax. 0884-36-3641

- ・大滝倫子 (九段坂病院)

〒102-0074 千代田区九段坂南 2-1-39

Tel. 03-3262-9191 Fax. 03-3264-5397

#### 微生物学担当

- ・岸本寿男 (岡山県環境保健センター)

〒701-0298 岡山市南区内尾 739-1

Tel. 086-298-2681 Fax. 086-298-2088

- ・吉田芳哉 (株式会社シマ研究所)

〒174-0063 東京都板橋区前野町 3-6-10

Tel. 03-3966-2283

## 編集後記

国立感染研在職中からダニ媒介感染症の厚労省科研課題の担当を開始された岸本先生であったが、郷里の岡山県環境保健センターへ移られても同課題を更新継続されて来た。なにしろ、この分野の調査研究を所長という立場から担当するというのは他県には見ない稀有かつ貴重な形であった。関係者はこぞって協力を惜しまない態勢で2期6年間があつと言う間に過ぎて今年度が最終であるが、この時期にSADIのホストを受けていただいたというのも、いわゆる“まことに時宜を得た”とう言い方がまことに当てはまり、タイミングが良過ぎる感さえあつたが(笑)、開催の中身は期待された以上の質と量であったことは参加者全員が体験したことであつた。改めて、6年間のお努めへのねぎらいも込めてお礼申し上げる(ちなみに、同分野の課題は国立感染研にて引き継がれる可能性大と思われるが、岸本先生には今後ともさまざまな形で関わっていただけよう)。

発表のあつた話題全体を見渡せば、開催地の特色として南西日本(とくに中国地方)にみる問題を中心に、全国各地から集まった知見や情報ということで実に多彩であつた。それを彩ることとして(期待した紅葉の方は遅れていたが)、同地方で秋多発の患者に同調するタテツツガムシの採集が疫学ツアーで堪能できたことを挙げてよいだろう。まことに小さなダニであるツツガムシが、その気になれば肉眼で無数に見えることに、参加者60名ほどの集団が一緒に興奮し、ダニ類の存在感が一気に高まった瞬間であり、この世のものとも思われぬ光景であつた。その興奮が冷めやらぬうち、近傍の高速道路の芝生法面にドウダンで浮かし作られた「つつがの里へようこそ」という文字を背景に集合写真まで撮られたのはグートタイミングとしか言いようがない。これは、ホストからご相談があつてタテツツガムシと紅葉で名高い国指定名勝「三段峡」を推挙した委員会としても想定外の出来であつた。

終わりに、今回は20周年記念となる年であることから、第1回開催の地である徳島県阿南市の馬原先生にお受けいただくことの提案があつたため、最終日の事務連絡で参加者に諮ったところ、一致して賛同を得た。来年は、手弁当開催の基本を大事にしつつ、内容的にはある意味で派手な盛り上がりを目指したい。組織委員会の一員としての高田は“第20回記念「紅斑熱の古里大会」”という名称を提案したいが、もちろんリケッチアのみならず他の感染症や疾患の関係者も大事に勧誘し増やすことが委員会の責務と考える。大方のご参加と広報をお願いします。(高田文責)